

第146号

教育



副会長挨拶
三河公立小中学校
女性管理職者会会長挨拶
総務委員会
研究大会・研修会等の報告
今後の研究大会・研修会等のご案内





つながる三河教育

三河教育研究会 副会長

吉野 薫

中学校三年社会科の授業です。「市長選挙を体験し、政治について考える」テーマのもと、提示された模擬市長選挙立候補者それぞれが掲げる政策をもとに、自分なら誰に投票するかを選びます。

まず、生徒一人一人が自分の推す候補者について考えました。そのあと、グループで交流する時間です。他のメンバーが選んだ候補者とその理由を聞き合うなかで、ある生徒が言いました。「ああ、確かにそっちの考え方もあるよな。うーん、どうしよう……」。この生徒は、自分の考えと仲間の考えを比較しながら、自分が推す候補者の政策について見直し始めました。これは「多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重する」、「一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出す」協働的な学びの姿です。この姿の背景には、立候補者が掲げる福祉・子育てや産業振興などの政策を「利点」と「問題点」の視点で整理させ、生徒個々にしっかりと考えをもたせた教師の働きかけがありました。

「グループ学習」「かわり合い」「話し合い」など、学習内容によって形態や呼び方は変われども、子どもと子どもをつなぐ授業のあり方は、私たちがずっと大切にしてきた三河教育の中心的な考え方です。「協働的な学びの実現」を国が唱える以前から、私たちは取り組んできました。

三河教育研究会では、三河各地の授業実践を持ち寄り切磋琢磨する各部会・委員会の研修会や、理論と実践の観点から授業づくりについて学ぶ授業力養成講座などを今年も開催しています。これは、市町を越えて教師が学び合うことのできる貴重な機会となっています。子どもと子どもがつながる授業に対して、教師と教師がつながる場です。

もちろん、これまでのやり方に固執してはいけません。世の中、特に学校や教師を取り巻く環境はどんどん変わっています。変えるべきものと変えるべきではないものを見定めていく姿勢がますます必要となっていきます。三河教育研究会は「三河のすべての子どもたちに、優れた教育を保障する」ことを目指してきました。この原点を大切にしながら、子どもと子どもをつなぐ授業実践、教師と教師をつなぐ教育研究活動のあり方をこれからも考えていきたいと思います。



ハードルを越えて

三河公立小中学校女性管理職者会 会長

清松 治子

子どもたちが本を読まなくなったと言われはじめてから、もうずいぶん年月が経ちました。「活字離れ」という言葉がありますが、活字どころか、デジタルでも、映像や短い字幕を見るばかりで、「文章を読む」ことから遠ざかっているように思います。本校の子どもたちも例外ではなく、毎年行うアンケートの結果からも、調べ学習等まで含めても、本に関心をもち、手に取る子どもたちが減っているのは明らかでした。子どもたちが読書から遠ざかってしまった理由はいろいろあると思いますが、読書が、いくつかのハードルを越えないとできない行為だということが大きいと思います。本を読むということは、国語や算数のように、学校で勉強することとは違いますから、まず、「主体的に」本を読もうと思わないと発生しない行為です。たとえそう思いつても、次には、「自分で」本を選ばなければなりません。そうして本を読み始めると、「一人で」本と向き合うことになります。読書になじみの薄い子どもにとって、このハードルは低くはありません。

読書に興味のない子どもたちに、今すぐ「主体的に」「自分で」「一人で」本と向き合えというのは酷な話です。そこで、本校では、週に一度、読み聞かせの時間を設定しました。毎週金曜日の朝は、各学級で、読み聞かせボランティアの皆さんに担任、役職も加わって、一年生から六年生まで、全学級で読み聞かせを行うようにしました。読み聞かせなら、子どもたちは、読書のハードルを越えなくてすみます。そうして、興味が湧けば、自分からハードルを越えようと、本を手取る子どもたちも増えていくでしょう。

実際、読み聞かせを始めてから、アンケート結果にも違いが出ました。意外だったのは、子どもたち以上に、教員の意識が高まったという結果が出たことです。

最近、読書する人は全部うまくいく、という感じの書籍が出ましたが、本を読んだらそんなにいいことがあるのかと言われていると、正直、私には何とも答えられません。語彙が増え、読解力がつくと言われていますが、私は何一つ根拠をもちません。しかし、一つ確かなことは、読書の楽しみの醍醐味は、想像力であるということです。

もちろん、読書しなくても人は生きていきます。ですが、言葉から想像の翼を広げ、どこにでも行き、何者にでもなれる心の豊かさを、子どもたちにはもってほしいと思うのです。

子どもを中心に据えた

授業実践の推進

― 令和七年度 研究大会・夏季研修会を終えて ―

総務委員会

総務委員会

総務委員会では、五月二十一日の定期総会以降、役員会・常任委員会を開催し、常任委員会の活動計画や各部会・各委員会の夏季研修会などの充実について、協議を重ねてきました。

本年度は夏季休業中に十七の研究大会・研修会が開かれました。子どもが主体的に学ぶことのできる授業をめざし、活発な議論が展開されました。秋以降には六つの研究大会が計画されています。研究大会・研修会で提案された指導案は、ホームページに掲載していきます。

また、授業力養成講座Ⅰを、東三河は八月十八日に豊橋市教育会館、二十五日に豊橋市男女共同参画センターにて、西三河は八月二十日に、にしん文化会館茶々とホールにて開催しました。いずれも多く多くの受講者が集い、熱心に研修が進められました。

研究大会・研修会、授業力養成講座での学びが、これからの三河教育の推進に生かされることを期待します。

なお、研究大会・研修会の運営に際し、関係市町村教育委員会・関係機関の方々にご尽力いただきましたことに、心より感謝申し上げます。

研究大会・研修会等の報告

国語

言葉による見方・考え方を働かせ、

正確に理解し、適切に表現する力を

育てる国語科の授業

令和七年度 国語部会夏季研修会

期 日 八月一日(金)

場 所 高浜市地域交流施設たかびあ

参加者 三百二十六名

講演会 「フレイクニュースと

言葉の力」

講 師 藤代 裕之氏

各分科会では、研究テーマに沿った実践について、提案がなされました。協議会では、提案者の確かな実践をもとに、活発な議論が展開されました。三河の子どもたちが正確に理解したり、適切に表現したりできるための教師支援のあり方について、多くの先生方が熱心に協議に参加される姿を拝見しました。

講演会では、教科書教材「インターネットは冒険だ」(小学五年)の筆者・藤代裕之氏をお招きしました。

加速度的に技術革新が進む時代だからこそ、言葉をと



講演される藤代裕之氏

というお話をいただき、国語の授業で情報を取り扱う際のヒントを得ました。

最後になりましたが、本研修会を支えてくださった高浜・知立地区の先生方、提案・助言・司会をお引き受けくださった先生方に心より感謝を申し上げます。

言葉を吟味し、思いを表現する

安城・東山中 河田 誠一朗

小学校「書くこと」の分科会に参加しました。小学五年生の短歌の授業を題材に、一つ一つの言葉にこだわりをもち、三十一文字で心の動きを表現しようと主体的に取り組む子どもの姿が見られました。

「みとなん二十八人一首」という单元を貫く魅力的な課題の設定、心の動きに着目した題材の選び方、短歌の「極意」と位置づけた推敲の視点など、子どもの主体性を育みながらも、言語能力を伸ばす手立てが随所に見られた実践でした。

協議会では、「子どもたちを国語好きにできたか」という視点で意見交流をしました。先生方との対話から、教材の合わせ方の工夫、「書きたい」という思いを引き出す課題設定の仕方、課題意識を継続できる資料活用の方法など、二期期の授業に生かしたい視点が得られました。

書 写

令和七年度 書写実技講習会

期 日 七月二十五日(金)

場 所 むらさきかん(岡崎)

参加者 二十八名

講演・実技講師 岐阜女子大学

教授 中根 海童氏

講演会 「文房四宝について」

「できた」喜びを味わうよさ

蒲郡・竹島小 金子 加歩

みなさんは、どのように書写の指導を行っているでしょうか。私は、字形や運筆の指導になかなか自信がもてず、子どもたちが筆や墨に親しむ時間になれば、と思っています。

私は小学生の頃に書道教室に通っていましたが、そのころからずっとひらがなの「の」に苦手意識をもっていました。この度、中根海童先生の講演をお聞きして、「穂のS字形」「穂のねじれ」「穂の背の線」という運筆の基本を学ぶことができました。その後、中根先生に実技指導を賜り、初めて「の」のよりよい運筆を理解して書くことができました。「できた」瞬間は、大人でもうれしく、「もっと字を書きたい」「もっと上手に書きたい」という気持ちになりました。また、講演の中で文房四宝の奥深さも味わうことができました。それは、筆や墨などの実物に触れることができたからこそだと思います。

中根先生のお話の中で最も印象深かったのは、「書写が楽しくなるためには、子どもが書けた喜びを実感することが大切だ」というお言葉です。今回、自分がその喜びを、身をもって感じる事ができました。このことは、書写に限ったことではないと思います。

てその大切さを実感するよい機会となりました。今後子どもたちの「できた」を大切にしていきたいです。



書写実技に取り組む様子

算数数学

数学的な見方・考え方を

働かせた学びをめざして

「主体的・対話的で

深い学び」を基に

令和七年度 算数数学部会夏季研修会

期 日 八月二十一日(木)

場 所 にしん文化会館

茶々とホール

参加者 四百八名

講演会 「数学的な見方・考え方を
働かせて、資質・能力を
育成する授業」

講師 前 教育課程調査官
現 明星小学校

笠井 健一氏

分科会では、小中学校に合わせて十二の提案を、六つの分科会に分かれて協議しました。「教材・導入・単元の工夫」「数学的な見方・考え方」「協働的な学び」「深い学び」などをキーワードとした各地の実践が発表され、愛知教育大学の先生方から、それぞれの実践に対してご助言をいただき、大変充実した



講演される笠井健一氏

研修の機会となりました。三河各地よりご参加くださった、四百名を超える先生方が一堂に会して議論を交わし、二学期からの実践につながる有意義な時間となりました。

分科会後には、前教育課程調査官、現明星小学校の笠井健一氏より、「数学的な見方・考え方を働かせて、資質・能力を育成する授業」という演題でご講演をいただきました。全国学力・学習状況調査の問題や結果を踏まえながら、資質・能力を育むために、どのように数学的な見方・考え方を働かせたらよいのかをご教授いただきました。子どもに考えさせて、考え方を学び合う授業を実践する必要性を強く実感しました。

三教研西尾大会に参加して

豊川・御津中 日下 圭介

中学年の分科会では、子どものやる気を引き出すためにストーリー性をもたせた単元を構想した実践、緻密な準備を施したグループ学習をとおして、「みんなが高まる」ことを目標にした実践、いずれも主体的・対話的で深い学びが実現されていて、とても参考になりました。

講演会では、全国学テの分析を踏まえ、「児童生徒が問題に対して深い理解をしているかが大切である」ということを学びました。子どもどうしが学び合う前に、教師が教え方の手本を示せるよう、今後

社会

社会的な見方や考え方を働かせ、

仲間とともによりよい社会づくりへの

参画をめざす社会科の授業(四年次)

令和七年度 愛知県社会科教育研究大会

期 日 八月八日(金)

場 所 ライフポートとよはし

参加者 三百五十三名

講演会 「社会科授業改善の
現状と課題」

講師 兵庫教育大学大学院
社会教科マネジメントコース

教授 山内 敏男氏

隔年で開催されている愛知県社会科教育研究大会が、八月八日にライフポートとよはしで開催されました。当日は、三河地区全域や尾張地区から多くの先生方を迎え、盛会のうちに幕を閉じました。

講演会では、兵庫教育大学大学院教授の山内敏男氏にお話をいただきました。先生からは、教師が、社会科の授業のねらいと、子どもたちの学ぶ意味という視点をもち、授業を準備していくことの大切さを教えていただきました。

単元を貫く問いと、その解答に近づくための問いを、構造的に授業に組み込むことで、子どもたちが学ぶ意味を見出すことができるよう、授業の改善点を示していただきました。また、写真を見ながら実際に問いを作るなど、対話的に進められ、実際の授業場面を想起しながら学ぶことができました。

講演会の後

は六つの分科会に分かれ、各地区の実践が提案されま

した。山内先生にも引き続き、助言者として参加して

いただきました。

分科会では、各地区の提案をもとに、積極的な議論が行われ、社会科の授業について語り合う姿が見られました。

わたしたちは、今回の愛知県社会科教育研究大会の研究成果と課題を踏まえ、今後も研究に取り組んで参ります。

最後に来賓の先生方をはじめ、分科会の内容を深めていただいた助言者の先生方、並びに関係諸機関の先生方に深く感謝しあげます。

学ぶ意味を構築し社会参画をめざす

碧南・新川小 加藤 周司

「物理的な距離が近いからといって身近と言えるわけではない」「ズレを発見させることが学ぶ意味につながる」今回発表した実践では、新川学区の発展に貢献した偉人が、学区では知られていないことから、学区の今と昔を教材化しました。これが、社会的現象を身近にとらえ、追究意欲につながったように思います。学区の発展に貢献した偉人を助けたいと考え動き出す姿は、山内先生の講演・ご助言の内容とも重なり、社会参画を実現しようとする姿であると感じました。



講演される山内敏男氏

音楽

思いや意図をもって表現する
児童生徒の育成を目指した音楽活動

令和七年度 音楽部会夏季研修会

期 日 七月三十日(水)

場 所 知立リリオ・

コンサートホール

参加者 百八十名

講演会「音楽の授業って楽しいね！
そして学べるね！」

～校内音楽会や
合唱指導につなげて～

講師 神奈川県私立桐蔭学園
小学校教諭

岩井 智宏氏

講演会では、参加者を子どもに見立て、授業形式で講演が行われました。授業展開の失敗談から参加者の悩みに寄り添い、歌唱授業において「前向きな気持ち」「人間関係の安心感」「認め合い」「目には見えない表現での達成感」「一緒に感動する心」が必要であることを、歌唱活動を通してご示唆いただきました。『さんぽ』では、子どもの自己肯定感を高める声かけや、子どもたちが人間関係の安心感から前向きに音楽活動に取り組めるよう、互いに認め合う歌唱活動を行いました。『ひらいた ひらいた』では、活動中の子どもを見取り方、音楽的な知識や学びへの結びつけ方について、身体表現をしながら歌唱活動することで、子ども自身の気づきを引き出す方法を体感し

ました。『もみじ』では、楽曲の中にある違いに着目し、音符の長さやリズム、歌詞から考える表現などから音楽的な学びにつなげる方法を参加者と語り合いながら考えました。子どもたちの中に「楽しく学ぶ」を導くためのヒントを得る貴重な機会となりました。
夏季研修会の開催にあたり、準備協力いただきました各地区の先生方、知立リリオ・コンサートホールの方々に深く感謝申し上げます。

参加者の声(研修会後アンケートより)

▽自然な活動の中で音楽にのめり込んでいる自分に気づきました。子どもたちにも同じような体験ができるように、声かけや働きかけをしていきたいです。
▽「どうしてそう思うのか？」を丁寧に追求していくことが、音楽的な力の積み重ねになると知りました。音楽は体験が大事なため、合唱や演奏をする時間を十分に確保したいと思います。

▽子どもが自分から学ぶことができる授業づくりの大切さを学びました。特別支援学級でも活かせる取り組みだと感じました。歌いたい、表現したいと思わせる授業展開ができるよう、実践に活かしたいと思いました。



講演される岩井智宏氏

保健体育

運動する楽しさや喜びを味わい
自ら学びを深めていく体育学習
(一年次)

令和七年度

保健体育部会夏季研修会

期 日 八月八日(金)

場 所 幸田町民会館

参加者 三百三十一名

講演会

「楽しみ方は無限大！
走るは『速い』だけじゃない」

講師 愛知学泉大学

講師 高田 由基氏

講演会では、高田由基先生より、ご自身の経験を交えながら、走ることの楽しさについてお話をいただきました。走ることは、一人でも複数でも楽しむことができるからこそ、生涯スポーツとして大人になって走ることを楽しんでいるのだと知りました。子どものころに、走ることを楽しいと感じられるようにすることも、体育学習に必要であると学びました。

研究協議会

においては、高浜・港小の吉原大貴先生から、自ら動きを創り出す体づくり運動の実践が、豊橋・東陽中の玉越圭先生か



講演される高田由基氏

らは、バランスボールを活用した柔道の実践が提案されました。参加者は自分の実践と照らし合わせながら、熱心な討議を行いました。助言の先生からは、子どもが主体的に学ぶ授業づくりのヒントをご示唆いただきました。

保健体育部会夏季研修会に参加して

幸田・幸田小 鈴木 哲也

講師の高田由基先生のご講演から、体育科の授業における、子どものやる気を引き出す極意について学びました。子どもが、苦しい、きついと感じている持久走の授業も、自分のペースで楽しみ方を知ること、「つらいだけ」から「楽しい」授業へ変えることができるなど、これまでの当たり前を覆す多様な実践方法を教えていただきました。また、体育科のめざす、生涯にわたって運動やスポーツに親しむ子どもを育成するために、授業で子どもの自己効力感を育む工夫の必要性についても学びました。小学校分科会では、吉原大貴先生の実践や参加された先生方のご意見をもとに、各校の体づくり運動の授業の実践について情報交換をしました。さらに、鈴木一成先生のご助言から、体づくり運動についての考え方を改めて見つめ直し、学校の体育科の授業でしか学べない、相互技能という視点について学ぶことができました。ご講演・研究協議会では、共通して、運動が苦手な子どもや意欲的でない子ども等への指導の工夫について学ぶことができました。今後の授業実践に生かすことのできる、多くの学びを得ることのできた研修会となりました。

養護教諭

養護教諭の資質向上と

健康教育の推進

令和七年度

養護教諭部会夏季研修会

期 日 八月一日(金)

場 所 刈谷市総合文化センター

参加者 四百四十七名

講演会 「能登半島地震を踏まえた災害対応」

講 師 日本体育大学大学院 教授 鈴木 健介氏

実践発表では、刈谷市養護教諭部会が「危険を予測して行動できる児童生徒・教職員をめざして」養護教諭が行う危機管理体制の充実と保健教育の取組」をテーマに発表しました。学校における危機管理意識と実践的な対応力の向上を目的として、教職員・児童生徒双方に対し、多面的な取組を実践されていました。具体的には、教職員の対応力を高める緊急時対応訓練や災害時を想定した卓上訓練、児童生徒の危険予測力を育てる保健教育、家庭と連携した防災活動などが紹介されました。これらの取組は、他の地区にもたいへん参考になる内容でした。常任講師である愛知教育大学准教授の山田浩平先生からは、実践報告のまとめ方や、具体的な危機対応について丁寧な指導講評をいただき、今後の実践に活か



講演される鈴木健介氏

せる貴重な学びを得ることができました。

鈴木先生の講演では、能登半島地震での現場対応経験に基づき、「感染対策」「介護支援」「学校再開時の対応」の三点を中心に、実践的な内容が紹介されました。避難所での感染制御チームの役割や、介護支援が滞る中での避難所運営の変化、学校再開後の子どもへの心のケアの重要性など、学びの多い内容となりました。また、養護教諭でも対応可能な簡易トリアージの方法や、災害時に必要となるバイタルサインの確認手順について、丁寧な解説がありました。さらに、実際の状況を想定した実践的な動画の紹介もあり、学校現場ですぐに活用できる内容が多数取り上げられていました。

養護教諭が果たす役割と、そのために必要な知識や技術の重要性を改めて実感する有意義な研修会となりました。夏季研修会の開催にあたり、各地区の先生方には多くのご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

学習情報

ネットワーク社会における

メディアとヒューマン

コミュニケーション

令和七年度 ICT活用研究会

期 日 八月一日(金)

場 所 知立市文化会館(パティオ池鯉鮒)

参加者 百五十名

提案者およびテーマ

①「自ら学ぶ力を育むICT教育の実践」
蒲郡・形原北小 鳥居 真和先生

②「現場発！豊川版・デジタルシティ
ズシンシップQ&A実践録」
豊川・東部小 谷中 優樹先生

③「健康のために、電子メディアを適切
に使用することのできる児童の育成
」3年生体育科「3年4組メディアコ
ントロール作戦」の実践を通して」
岡崎・岡崎小 忠内 亮太先生

④「主体的に粘り強く活動する児童の育
成のための学習用タブレットの活用
」3年算数科「あまりのあるわり算
の実践における児童の課題解決」
豊田・衣丘小 安東 哲也先生

⑤「課題を考え、主体的に学習に
取り組む児童の育成
」4年生算数科「I love 北小
」面積の学習」の実践を通して」
みよし・北部小 中川 恭祐先生

助言・講評
岡崎市立夏山小学校
校長 村田 貴志氏

五つの地区
からの提案で
は、児童の実
態に即したI
CT機器の活
用が工夫され
た授業実践が
発表されまし
た。発表後の
研究協議では、参加者と発表者が意見交
換を行い、それぞれの実践に対する理解
を深めました。

助言者の村田先生からは、これからの
よりよいICT活用授業を目指すうえで、
五つの提案に対して価値づけやさらなる
学びにつなげるための課題が的確に示さ
れました。その指導講評では、ICT機
器を活用することで得られる利点として、
①思考の視覚化、②思考の繰り返し、③
瞬時の共有、の三点が挙げられました。

さらに今後の課題として、児童に同じ
ソフトやフォーマットを一律に使用させ
る一斉授業が、かえって学びを妨げてい
ないかを問い直し、一人一人の学び方に
応じてICT機器の使い方を選択できるよう
な「授業の複線化」の必要性が示されまし
た。加えて、教員のICTスキル格差が許
容されない時代に入ったことを踏まえ、現
場のパイオニアが率先して実践を公開・共
有することにより、すべての学級・学校で
ICTを活用した授業が行えるようにする
「指導の汎用化」の視点も強調されました。

本研究会は、参加者にとって、今後の
実践に生かすための多くの気づきと学び
を得られる有意義な研修となりました。



助言・講評される村田貴志氏

今後の研究大会・研修会等のご案内

理科

自然の事物・現象を主体的、
協働的に追究し、子どもの
資質・能力を育む理科学習

第五十八回 全国小学校理科研究協
議会研究大会 愛知大会並びに
令和七年度 愛知県小中学校理科教
育研究発表会
期 日 十一月二十日(木)
二十一日(金)

〈第一日目〉
場 所 岡谷銅機名古屋公会堂
基調提案

「問題解決の道筋を構想し、自然
の事物・現象をより深く理解する
子どもの育成」——理科を学ぶ幸福
感を味わう、主体的で子ども中心
の学びを通して——

指導講話

文科省初等中等教育局課程教科調査官
有本 淳氏

記念講演

「世界で活躍できる新医療人の育成」
講師 学校法人藤田学園 副理事長
湯澤 由紀夫氏

〈第二日目〉公開授業

場 所 名古屋市立なごや小学校
名古屋市立瑞穂小学校
名古屋市立船方小学校

指導講話

福島大学 人文社会学群人間発達文化学類
教授 鳴川 哲也氏

学校法人希望が丘学園

統括顧問 日置 光久氏

愛知教育大学 教育学部

教授 大鹿 聖公氏

本年度は、十一月に名古屋市で、全国の
小・中学校より、約千名の先生方にご参加
いただき、第五十八回全国小学校理科研究
協議会研究大会愛知大会並びに令和七年
度愛知県小中学校理科教育研究発表会を
開催する予定です。一日目の研究全体会で
は、文科省初等中等教育局課程教科教
科調査官の有本淳氏をお招きし、理科教
育の現状とこれからについて、お話しいた
だく予定です。記念講演では、学校法人藤
田学園副理事長の湯澤由紀夫氏から「世
界で活躍できる新医療人の育成」につい
て、社会課題に自分事として問題解決にと
う取り組むか、お話しいただく予定です。
二日目の学年別分科会では、三河部か
ら、二名の先生に発表していただきます。
豊田市立中山小学校の湯澤貴司先生
は、モデル実験の工夫や「ゆざワークシ
ート」の導入を通して、視覚的な支援や日
常生活に結び付けられるように手立てを
考えられた実践をされました。田原市立
田原中部小学校の鈴木健斗先生は、問題
解決学習に取り組む中で、子どもたちが
問題を自分事に行き届くように手立てを考
えられて実践をされました。学年分科会
後の協議では、授業者・参観者の間で活発
な意見交換が行えればと考えております。
本年度は、愛知県での開催となり、三
河地区の多くの先生方にご参加いただ
き、理科のよりよい授業づくりについて
考える機会にできればと思っております。
ご協力よろしく願いたします。

その他研究大会・研修会等

愛知県英語教育研究大会

11 / 5 豊田

愛知県統計教育研究発表会・講演会

11 / 21 名古屋

愛知県生徒指導研究大会

11 / 11 豊田

愛知県学校視聴覚教育研究大会

10 / 17 江南

愛知県へき地・複式・
小規模学校教育研究大会

10 / 31 北設

授業力養成講座Ⅱ(西三河①)

10 / 15 西尾

授業力養成講座Ⅱ(西三河②)

11 / 5 碧南

授業力養成講座Ⅱ(東三河①)

11 / 6 豊橋

授業力養成講座Ⅱ(東三河②)

11 / 7 豊橋

三教研公式ウェブサイトの案内

三教研ホームページ 活用してみませんか？

授業づくりの
ヒントに！！

現在の指導案収録件数 **300** 件

研修の
参考に！！

すべての子どもの笑顔のために

学習指導案検索

学年、教科等のカテゴリとフリーワードで学習指導案を検索できます。
授業づくりや自己研修のために役立ちます。ぜひご利用ください。
一度充実させるため、会員のみならぬ学習指導案の提供もお待ちしております。

CONTENTS

三河教育研究大会について 「検索みかわ」 パッケージパンフレット 活動予定・日程 活動記録・資料



スマホ
にも対応

三教研公式ウェブサイトに
関してのご意見を事務局ま
でお寄せください。

アドレス：<https://www.sankyouden.jp/>

編集後記



今年の夏も記録的な酷暑になり
ました。昔の感覚のまま、今の暑
さを過ぐすと、命の危険が伴うと
感じたので、些細なことですが、
人生で初めて日傘を使用するよう
になりました。生活の知恵を環境
にあつたものに更新する必要性を
強く感じています。

本年度、各分会・委員会による
研修会、授業力養成講座Ⅰが東西
三河各地で盛大に開催されました。
各研修会では、意欲と熱意をもつ
た先生方が集い、協議が行われま
した。目の前の子どものために学
び続け、自らの力量を向上させよ
うと研修・研鑽に取り組む、三河
の先生方の熱い思いが溢れていま
した。
ご多用の中、原稿をお寄せいた
だいた皆様方に、心より感謝申し
あげます。

表紙の写真

「頼んだぞ」

撮影 みよし市立南中学校

教頭 山田 郁子先生